

演題番号：8

演題名：採卵鶏とブロイラーでみられるT細胞性腫瘍の診断について

発表者名：○服部千夏、宜保公子、中村正治

発表者所属：中央食肉衛生検査所

### 1. はじめに

食鳥検査で遭遇するリンパ球性腫瘍性疾患は従来からマレック病（MD）あるいはリンパ性白血病（LL）とされている。当所では採卵鶏、ブロイラー共に免疫染色によってT細胞由来の腫瘍についてはMDと診断している。しかし、昨年度これまでMDと診断してきた採卵鶏症例が細網内皮症ウイルス（REV）を保有していたことや、HE所見の多彩さから診断に苦慮する症例が増加した。そこで今回、病理組織診断でMDを疑った検体についてマレック病ウイルス（MDV）およびREVの保有を確認し、病理組織診断の一助となるのか検討したので報告する。

### 2. 材料及び方法

平成26年9月～平成27年10月に管内食鳥処理場に搬入され、肝臓や脾臓の腫大等の肉眼病変を示した採卵鶏のうち細網細胞腫様を呈した2羽と、リンパ腫様病変を呈した2羽の肝臓及び大腿骨各1検体の計8検体、及びブロイラーでMD様病変と細網細胞様細胞が混在していた6羽の肝臓6検体を材料とし、定法に従いHE染色及び抗CD3抗体を用いた免疫染色を行った。また、採卵鶏の肝臓4検体（2検体はパラフィン包埋組織）及び大腿骨4検体、ブロイラーの肝臓6検体（2検体はパラフィン包埋組織）を用い、PCR法によりMDV遺伝子及びREVプロウイルスの遺伝子の検出を試みた。

### 3. 結果

採卵鶏で細網細胞腫様を呈した2羽のうち1羽は抗CD3陰性・肝臓及び大腿骨でREV陽性・大腿骨でMDV陽性、1羽は抗CD3陽性・大腿骨MDV陽性・その他陰性であった。リンパ腫様病変を呈した2羽はCD3陽性、REV陽性及びMDV陰性であった。ブロイラーは6検体全て抗CD3陽性及びREV陰性で、5検体はMDV陽性であった。

### 4. 考察及びまとめ

採卵鶏で細網細胞腫様病変を呈した2羽のうち抗CD3陰性の1羽は既報で急性細網細胞腫と診断されている。抗CD3陽性の1羽は、肝臓及び大腿骨共にREV陰性、大腿骨でMDV陽性であったことからMDと診断した。リンパ腫様病変を呈した2羽はREV感染のあった全身性T細胞性腫瘍とした。ブロイラー6羽はMDと診断したが、MDV陰性の1羽については特に全身症状が軽くMDの初期病変であること、さらに固定包埋処理によるDNA損傷等の要因によりPCRで検出されなかったものと考えた。今回の結果からブロイラーについてはREVの影響は考慮する必要は無く、従来通りHE所見及び免疫染色によりMDと診断できるが、採卵鶏については今後検体数を増やし、ALVなど他の病因を含めた検査方法について慎重に検討する必要がある。